いしづち

2025.5
MAY
No.164

公益社団法人 愛媛県建築士会
Ehime Society of Architects & Building Engineers
http://www.ehime-shikai.com

・・・の夢
建築パース製作基礎編４）鳥瞰図法
道後温泉の湯釜　養生湯の湯釜編

2025
5
ISHIZUCHI
Ehimeken kenchikushikai
MAY No.164

CONTENTS

1	・・・の夢		道上壮／ＶｕＡ……①
2	自分磨きへの道しるべ	建築パース制作基礎編４）鳥瞰図法	松山支部　尾﨑　光高……③
3	道後温泉の湯釜	養生湯の湯釜編	一級建築士　野本　　健……⑤ 文化財・まちづくり委員会　委員　花岡　直樹……⑤
4	～台湾からの来客～	喜屋武氏の松山初訪問の記録	松山支部　中尾　　忍……⑨
5	委員会報告	一般向け講座「防災学校」	文化財・まちづくり委員会　中山百合子……⑩
		令和６年度全国まちづくり会議報告（島根県）	文化財・まちづくり委員会　委員長　峰岡　秀和……⑪
		「とびだせ建築士in東予」2024年度	青年委員会　委員　瀬尾　祐貴……⑫
		令和６年度全国青年委員長会議報告（東京都）	青年委員会　委員長　武智　良太……⑬
6	支部報告	淡路島　視察研修バスツアー	今治支部　重松憲太郎……⑭
7	お知らせ	令和６年度　第７回理事会概要報告	事務局……⑮
		会員の皆様、会費の納入時期です。	事務局……⑯
		令和７年度講習会日程のお知らせ	事務局……⑯

※尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。

透明水彩、紙

題：「野忽那島（のぐつなじま）」サイズ／Ｆ４

野忽那島へのアクセスは、三津浜からフェリーで１時間程。忽那諸島東部に位置する島で、西側に睦月島、中島が見え、皿山頂上にある360度のパノラマの展望台からは瀬戸内海そのものの姿を一望する事ができます。額場（ぬかば）の海水浴場の近くには、丸山古墳（文化財）もあります。

表紙作者　上田　勇一　プロフィール

1974　東京生まれ
1980　小学校から高校まで松山在住
1990　東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞
1991　愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞
（愛媛県建築士事務所協会主催）
1993　画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ
1996　日本工業大学建築学科 卒業
1998　画家として活動開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催
2002　日本ファンタジーノベル賞受賞作者「世界の果の庭」
（新潮社）の装丁担当
2003　美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞（東京／日動画廊）
2010　愛媛県美術館に作品「ドライフラワー」収蔵される
2015～17　愛媛新聞 冊子アクリート表紙画連載
絵画教室やオリジナルブランド額工房「㈱リチェルカ」を設立
2017　「えひめの塗り絵」を出版
その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動。
現在、現代日本美術会 会員／審査員

・・・の夢

道上壮／VuA

誰にも夢がある。建築に携わっている人も例外ではない。誰かのために、何かのために、自分なりの目的・目標を持つ。それが夢だ。そして、その夢が建築をつくり上げてゆく。

コルビュジェは、歴史様式に立ち向かった最初の戦士だ。しきたりの多い歴史様式と一戦を交えるため、彼は近代建築の5原則を編み出した。古い決まりごとを駆逐するために、5つの武器を駆使して戦果をあげていった。彼が歴史様式を撃破した根底には何があったのか？

コルビュジェのスケッチを見渡すと、人が描かれている。モデュロールマンは特に有名だが、それ以外にも建物の随所に人が描かれている。歴史様式のスケッチでは、見られなかったことだ。そう、人を考えて建築を考えていたのだ。歴史様式の時代は、宗教や王国に力があり、その権威に民がひれ伏す社会だった。その社会構造を具現化したものが、歴史様式の建築でもあったのだ。だから歴史様式のスケッチには、厳かな建築が華々しく描かれているが、人の姿はない。

コルビュジェは、民を人をこそ中心に考えていた。そして、そのために建築が存在することを望んでいた。今で言う民主主義の考え方を、近代技術を通して建築化することに邁進した。ピロティは人々が雨に濡れないように、また、車を停めることができるように。水平連続窓は、健康的な太陽の光が部屋の隅々まで届くように、そして、爽やかな風が部屋中を駆け抜けるように。屋上庭園は、建築で失われた緑豊かな大地を再現するために、そして、そこで人々が幸せな時間を過ごせるように。「人間こそ建築の中心たりうる」コルビュジェはそんな夢を描いていたのではないだろうか。

ミースは、ずっと一つのことを追い求めていた。戦争に翻弄されながらもナチスドイツの迫害から逃れ、アメリカに亡命したのもこの一つのことを追い求めたかったからだ。それは、誰もが知るユニバーサルスペースだ。見方によっては単なるがらんどうだが、彼はその先にあるものを見つけたかった、出会いたかった。それは一体何なのだろうか？

住宅、集合住宅、オフィスビル、ホール、パビリオン…どんな建築でもその主要な空間をユニバーサルスペースで表現した。つまり、どんな使い方にも耐えうる空間をつくろうとしていた。ただ単に使えるだけではなく、その用途と違和感なくマッチする空間。それだけではなく、その用途をさらにアップグレードする空間。言わば万能空間であり、絶対空間であるものをつくりたかったのだ。

ミースは様々な実験を行っていた。平面の大きさ、天井の高さ、柱の大きさ。床の石割り、サッシの寸法、壁面のガラスの割り。床・壁・天井の素材、照明器具の設置、家具の配置。建築の要素を微細に変えて構成することで、完璧なユニバーサルスペースを生み出すことを追い求めていた。実験室でゲノム編集を行い不老長寿の塩基配列を見つけるように、完璧なユニバーサルスペースを構成する方程式を見つけることに挑んでいたのだ。「建築の神を創造する」ミースはそんな夢を描いていたのではないだろうか。

Dream of...

Le Corbusier
Mies van der Rohe

ＳＡＮＡＡは、建築の未踏の地平をめざしている。そのＤＮＡは妹島和世の初期作「再春館製薬女子寮」に埋め込まれていた。見たことのない、感じたことのない空間をつくり上げて、それまでの常識を覆していながらも、あくまでも建築として自然な魅力を感じる。それはまるで、歴史様式の前に現れた近代主義のように、心地よい既視感に溢れている。なぜそんな建築をつくることが可能なのだろうか？

ＳＡＮＡＡには、妹島和世と西沢立衛のツートップがいる。それだけではなく、２人と同じように建築を考えるパートナーが何人かいる。この集団の中では、自分の考えを主張して相手を説き伏せるのではなく、自分もいいと思い、相手もいいと思うものを考え出す。そんなスタンスでアイディアがブラッシュアップされてゆく。一義的な良さに甘んじるのではなく、多義的な良さを積み上げてゆく。膨大なスケッチと膨大なスタディ模型とによって、誰も見たことのない誰も考えたことのない空間や建築に辿り着いているのだ。

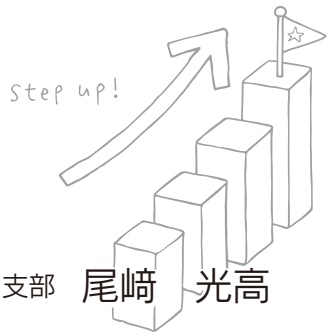
ＳＡＮＡＡは、常に既成概念を軽やかに超えている。誰が見てもＳＡＮＡＡと分かる固定した作風を目指したりはしない。おしゃれな建築をつくることに執着したりもしない。この敷地、この周辺環境、このプログラム、この時代に、最も適して最も突き抜けたものを生み出すことだけに、全身全霊を傾けている。は「建築の新しい可能性を生み出す」ＳＡＮＡＡそんな夢を描き続けているのではないだろうか。

Rem Koolhaas
Jean Nouvel
Herzog & de Meuron
SANAA
Toyo Ito
Sousuke Fujimoto

何かを倒す。何かを極める。何かを生み出す。夢は、人に偉大な力を発揮させる。時計職人の息子が、石工の息子が、電機技術者の娘が、世界を大きく動かし、時代を新しく変えてゆく。本人たちは意識していないのかもしれないが、純粋に何かを求める力が、全てを凌駕してゆくことに繋がっているように思える。

今とこれからの建築について考えてゆこう。その中心に据えて欲しいのが「新しさ」だ。見ているだけでワクワクして、そこで楽しく過ごせて空間や建築を味わえる。人の原体験にインストールされる、今までにない豊かさを帯びたもの。誰かが書いた文章ではなく、誰かが語った言葉ではなく、建築を見て体験して、そこから学び感じ取ったものにこそ、新しさのヒントがあるはずだ。

レム・コールハース、ジャン・ヌーベル、ヘルツォーク＆ド・ムーロン、ＳＡＮＡＡ、伊東豊雄、藤本壮介。今を駆け抜けるトップランナーたちの夢は、建築の未来の大きな礎（いしずえ）でもあるのだ。



建築パース制作基礎編４）

鳥瞰図法

松山支部　尾﨑　光高

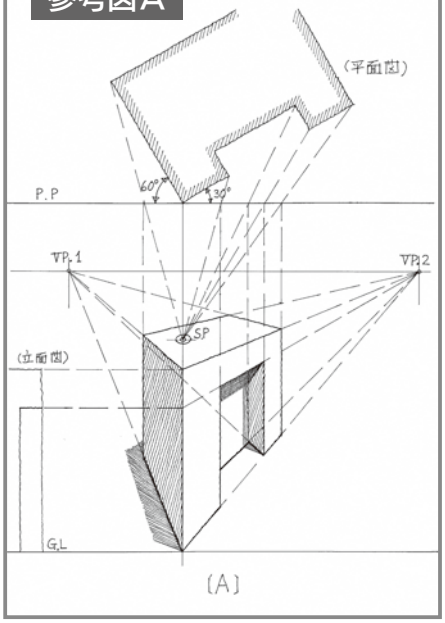
基礎編最後は鳥瞰図法について解説して参ります。

参考図内共通用語解説

ＰＰ　ピクチャーライン（画面）です。平面図が接しているので、この位置が実際の建築物の高さとなります。
ＳＰ　スタンディングポイント（人の立ち位置）です。カメラ、スマホで撮影する時の自分の立ち位置、あるいは建築物を見ている位置となります。
ＶＰ　バーニングポイント（焦点又は消失点）です。人が見ている位置と覚えて下さい。
ＨＬ　ホリゾンタルライン（目の高さ）です。このＶＰとＨＬは1点透視図の場合、同じ位置となります。１か所しかないので１点透視図と呼ばれています。これらは各技法とも同じです。

参考図Ａは前々回の２点透視図法と同じ平面図を使います。①いつものようにＰＰ線上に60° 30°で平面図を配置します。②次にＧＬを設定して、建物角とＰＰの接点から垂線をＧＬに下して任意の位置にＳＰを取ります。③そして、ＶＰ１，２の高さを建物より上に任意の位置に設定します。ここが違うところで空から見下げた図とするのが鳥瞰図法ということになります。④ＳＰと各建物角とを補助線で結び、ＰＰとの交点から垂線を下して各壁の位置を出します。⑤立面図の高さをＳＰ線上に移してＧＬとの交点共にＶＰ1，2と補助線で結び、建物下部と上部の位置を表します。⑥そして、建物壁線との交点を求め形取れば完成となります。今回も影を付けてみました。より立体感が出て分かりやすくなったと思います。建築パースの場合は絵画のようにぼやかすのではなく、真夏の太陽によるクッキリとした影にするのが好ましく立体感を強調出来ます。

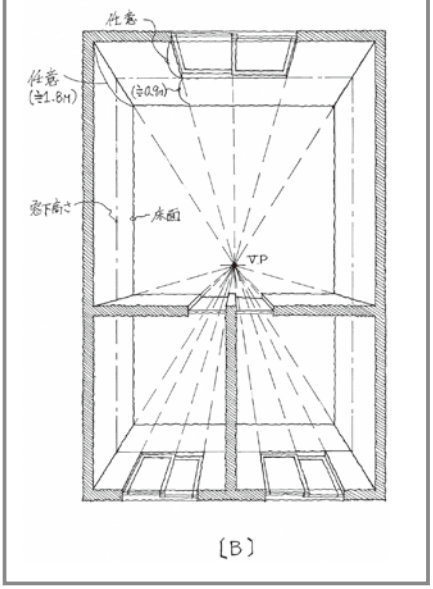
参考図Ａ



〔A〕

参考図Ｂは室内鳥瞰図法の作図法です。平面図から作図する方法ですが、マンションの間取りの説明用で使われる事が多いですね。①平面図を用意、ＶＰは中心で設定しました。②部屋各角、窓、ドア位置とＶＰとを補助線で結びます。③任意の位置で床面を設定し壁角の補助線との交点を結び床面の範囲を出します。④窓下高さも任意で設定し窓位置の補助線との交点を出します。⑤窓サッシの形も表してみました。私は壁面の高さは大体1.8m位で設定するようにしています。今回は簡単に時短で作成出来る方法として比率的な感覚で描いてみました。（一番はＣＡＤソフトを活用されるのが良いかと思われます。）

参考図Ｂ



〔B〕

このパース（透明水彩）は20代の頃に複雑な屋根の組み合わせを表現する為、２点透視鳥瞰図法で制作したものです。参考図Ａの作図方法をこま目に繰り替えして完成させた例です。影をはっきりと付ける方が建物の形が分かりやすく施主にアピール出来ます。何を訴求するか目的を持って作画するのが大事です。ＣＧの場合も同じ考え方で臨むのが良い結果に繋がります。

これは絵画（色鉛筆＋透明水彩＋ペン）として制作しましたが、３点透視鳥瞰図法的なものです。スマホで撮影した写真を基に下図を起こしました。大洲市のお花はん通りにある小さな水路ですが、錦鯉と竹筒を利用した花飾りで情緒ある風情が演出されており、とても日本的なランドスケープの手法だと思いました。そういえば、表参道ヒルズに行った折、歩道横に浅い水路が設けてありました。安藤さんの建築には水との関わりをテーマにした作品が多くありますが、古い日本文化的な考え方を現代に活かし、自然と建築との融合を表現していくのも楽しめますね。

▲大洲市のお花はん通りにある小さな水路

▲東京の某ビルにあったランドスケープ例

▲大洲市の臥龍山荘にある不老庵

鳥瞰実例）この写真は東京の某ビルにあったランドスケープ例です。都市部にこういう空間があると癒されます。東京は街路樹が比較的多いように感じました。固いコンクリート、ガラス等で囲まれた所では、少しでも自然を感じられるものがあれば人の気持ちも和らぐ効果が期待出来そうです。ここら辺のバランスの取り方も建築する者の使命かと思わされました。

今回で基礎編は終わりとなります。次回からは、実践編として、鉛筆、ペン、透明水彩などを使った表現方法、建物の各部分（窓ガラス等）、路面、添景（人、樹木、車等）インテリアなどの描き方、比率を利用した作図法など実務で役立つテクニック的なところをご紹介して参ります。又、パース制作以外に関する私なりのデザインの考え方、センスの養い方、色彩感覚の養い方、設計業務などについて感じてきた事等の内容もエッセイ的にお伝え出来ればと考えております。

最後に、古建築シリーズ第二弾として大洲市の臥龍山荘にある不老庵（ペン画）を描いてみましたのでご紹介させて頂きます。これもスマホにて撮影した写真を基に下図を起こして、用紙に転写してから描いたものです。一点透視図法となります。優れた数寄屋建築と庭園との融合が素晴らしかったですね。手前は茶室となっております。主役である建物が良く見えるように樹木の位置を調整しました。訪れた際、丁度、屋形船が通りかかったので建物と肱川との距離感（空気遠近法）を出す為入れてみました。崖縁に建つ大胆な造りで清水寺の舞台のような懸け造りと呼ばれる工法が採用されているそうです。建物の重心は石垣で補強された敷地内に収まっています。先人達の自由解放な発想には驚かされます。今だったら色んな制約があり、不可能だろうと要らん考えが頭をよぎりましたが。吟味された材料、細部にわたる妥協のないこだわりが凄かったですね。この情熱は見習うべきかと感じました。

次回は実践テクニックなどのご紹介をして参ります。尚、建築士会ＨＰよりカラー版が閲覧できますので是非ご覧下さい。宜しくお願い致します。

THE HISTORY OF
DOGO ONSEN
The hot water pot "Yugama"

道後温泉の湯釜 養生湯の湯釜編

執筆：　一級建築士　野本　健
監修：文化財・まちづくり委員会　委員　花岡　直樹

▲足湯の湯釜（放生園・令和３年時点）

正面に大国主命、背面に少彦名命の像を彫ったこの湯釜（直径110cm、高さ207cm）は、明治25年（1892）に製作され、昭和29年（1954）まで養生湯（現在の南棟）の湯釜として使用されていた。

背面にも湯口があるのは、当時、この湯釜が男女の間仕切り壁の間に設置されていたので、中央には仕切り壁が取り付いていた痕跡が確認できる。大国主命と少彦名命のデザインは埼玉県氷川神社の宮司であり画家でもあった山田衛居、彫刻は広島県尾道の石井源兵衛に依頼した。

昭和29年（1954）に浴室を改修するまで使用され、昭和48年（1973）に放生園を整備した時に噴水として使用され、平成14年（2002）から足湯となり、市民や観光客に広く親しまれ、道後温泉街のにぎわいに貢献している。

▲宝珠

【宝珠】

憫民夭折始製湯泉之術

たみのようせつするをあわれみ、はじめてとうせんのじゅつをせいす

【訳文】

（神様が）人々が若死にすることを憐れんで、はじめて湯泉の術をおつくりになった。

道後温泉の湯釜 養生湯の湯釜編

▲湯釜頂部

【湯釜頂部】

むかしより　たえぬながれも　さらにまた
無嘉志與理　多延努奈我麗母　佐良耳麻太
わきいずるゆの　しるしをぞおもふ
和幾伊豆留湯廼　志留志乎叙淤母布

【訳文】

昔から絶えることなく温泉が流れ出ている。さらに湧き出てくるお湯の、霊験をありがたく思うことだよ。

▲湯釜側面

【湯釜胴部刻印】

備後尾之道
石井源兵衛吉光
彫刻神型弁寶珠之文

伊豫和氣郡三津濵石工
吉村右三郎義長
彫刻詠歌弁記文

▲湯釜胴部▼

【湯釜側面訳文】

温泉のおこりは、大汝命（大国主命）・少彦名命（おおなむちのみこと　すくなひこなのみこと）の二神が、人々が早く亡くなるのを憐れんで始めたと、古い史書に伝えている。伊予国道後の温泉も、まさにその一つに他ならないのであって、天下に名高く聞こえるにつれて、遠くからあるいは近くからやって来て入浴する者が大変多い。温泉の不思議な力が明らかなことは言うまでもない。

そうであるのを今回、養生湯の底を深く掘って入浴する人の便利よくなるようにと、その改築の事業を発企して実行したところ、湯のわき出ることは、元湯にもまったく劣らないのは、この事業を進める実直な人々の真心を知って、良縁を得て幸せを与えようとする神様の深い深い御心が思い計られて、大変うれしく、たいそう尊いことだ。

まして、湯泉の術をお始めになった神様を、石に選び取って刻んだのは、激しく出る湯の尽きないお恵みを、遠くから近くから来た人々に確実に理解してもらおうという配慮であって、大変よろこばしいことだ。

そうであるから、実直な人々が発企して実行したこの事業は、築き固めた石が永久に、千万の人の助けとなるだろうことは言うまでもなく、その功績は、まったくこの温泉と共に時代が流れて、遠い将来に長く伝えられることなのだ。

道後温泉の湯釜 養生湯の湯釜編

▲古写真：養生湯（提供：二神　將）▲

【考察１：神の湯の湯釜のための試作品】

この湯釜は伊佐庭如矢が初代道後湯之町町長として就任し、明治25年（1892）に初めて手掛けた物である。現在、養生湯は「南棟」として建て替わり、湯釜自体も放生園に移設されたため、あまり話題にならない。

しかし、道後温泉本館の湯釜の変遷を辿ると、この養生湯の湯釜は、湯釜薬師と神の湯の湯釜を取り替えるための布石であり、試作品として捉えることができる。いきなり湯釜薬師を新たな湯釜と取り替え、神像部分を薬師如来から大国主命と少彦名命に替えることは多くの反発を生むことが予想された。

養生湯は元々、無料であり、伊佐庭如矢が明治25年（1892）に建て替え入浴料の徴収を始めたものの、引き続き地元の人々が利用する浴場であった。そのため、多くの人々の目に触れ、神の湯の湯釜を養生湯の湯釜と似たような物になると説明すれば、理解を得やすいと考えたに違いない。神像部分のデザインの画家と石工を養生湯の物と変えなかったことがその表れである。

▲千家尊福の書

【考察２：千家尊福について】

千家尊福は湯釜の宝珠と胴部の文字を揮毫した人物である。弘化2年(1845)～大正7年(1918)。出雲大社教初代管長であり、有名な「一月一日」の作詞を手掛けている。

道後温泉は『伊予国風土記』より大国主命と少彦名命の二神の伝説があることから、その縁で千家尊福に養生湯の繁栄を願う湯釜への揮毫を依頼したものと考えられる。湯釜に刻印された文章は養生湯の発展と道後温泉がこれからも永く続いていくことを祈願する文章となっている。

▲宝珠部分の文字

ここで勘の良い読者は気付くかもしれないが『伊予国風土記』は「湯泉之術」であり、千家尊福の文章は「温泉之術」となっている。

伊佐庭如矢が執筆した『道後温泉誌略』は千家尊福の揮毫文を「湯泉之術」と修正し、さらに宝珠と胴部の文字も手直ししていることから、千家尊福に修正を依頼することが難しかった心情を伺い知ることができる。

▲大国主命（左）と少彦名命（山田衛居）▲

【考察３：山田衛居について】

嘉永２年（1849）～明治40年（1907）。埼玉県の川越氷川神社祠官。有名な作品に明治元年（1868）に明治天皇が武蔵一ノ宮氷川神社に行幸された時の様子を描いた「明治天皇行幸絵巻」県指定文化財（絵画）がある。

伊佐庭如矢は養生湯、神の湯、又新殿の御湯殿の湯釜のデザインを依頼した。『道後温泉と伊佐庭如矢』によれば、伊佐庭如矢が町長になる前に、金比羅宮の禰宜をしていた時の縁で山田衛居と繋がりを持ったと記述されている。

武蔵一宮氷川神社には毎年12月10日に釜で湯を沸かし、その湯により清めを行う「大湯祭」という神事があり、その御祭神が大国主命と少彦名命であることから、その繋がりも１つの理由であることが推測される。

また、その出来栄えに感動した山田衛居が伊佐庭如矢と石工の石井源兵衛に上記掲載の贈った絵と言われている。

▲篠根八幡神社（広島県府中市）の狛犬（石井源兵衛）

【考察４：石井源兵衛について】

石井源兵衛は『尾道の石造物と石工』より広島県や岡山県などで12個の石造物を手掛けた記録が残っている（道後温泉の神の湯の湯釜が１つ抜けているため、12個とした）。

『道後温泉と伊佐庭如矢』によれば、湯釜薬師に刻印された尾道の石井何某を頼りに石工を探したと言われているが、石工を石井と読み違えた可能性が高いものと考えられる。

■まとめ

明治25年（1892）の養生湯の湯釜は明治27年（1894）建設の神の湯の湯釜に向けての試作品であることが、道後温泉の歴史を紐解いていく過程でわかってくる。

明治時代は道後温泉の集客や発展のため、神職を生業とする人々に二神のデザインや揮毫文を依頼していた。また、このような行為は神仏への信仰が厚い道後湯之町の民を納得させようとする並々ならぬ努力を伺い知ることができる。

また、湯釜薬師の文章の時と同じだが、伊佐庭如矢は『道後温泉誌略』と養生湯の湯釜で千家尊福の揮毫文を修正している。現実の文章や揮毫文から様々な修正・改変を読み解いていくことは非常に重要で大切な作業であることを感じる次第である。（続く）

■参考文献
『道後温泉誌 略』伊佐庭如矢 1901年
『道後温泉と伊佐庭如矢』阿部里雪 1915年
『道後温泉　増補版』松山市 1982年
『尾道の石像物と石工』
尾道市歴史文化まちづくり推進協議会 2016年
『川越氷川神社祠官　山田衛居』
川越氷川神社　宮司　山田禎久 2017年
＊本書掲載の文章・図版の無断複製・転載を禁じます。

～台湾からの来客～ 喜屋武氏の松山初訪問の記録

松山支部　中尾　忍

3月19日の午後3時頃、沖縄から一人の建築士が松山を訪問されました。青年の名は喜屋武幸治（きゃんゆきはる）さん。

▲喜屋武氏と花岡氏の交流記念写真

今回は愛媛県のＣＬＴ等の木材の工場の視察が目的で訪問されました。喜屋武さんは沖縄県那覇市が実家で、琉球大学建築学科を卒業され、ご縁があり台湾の奥さんと結婚。月の半分を家族がいる台湾で過ごし、残りの半分を沖縄で仕事をされています。私とは昨年２月に台湾建築視察の高雄市で現地通訳としてお会いしたのがきっかけで、その時私は台湾の木造建築の取組みや法整備などの調査が目的で訪問していました。

偶然ですが、喜屋武さんと私は時期は重なっていませんが、今治市出身の建築家で当時沖縄で活躍していた故越智史郎氏の設計事務所で働いていました。台湾の高雄市でそのような偶然の出会いがあり、今回は香川県の丸亀市に仕事で来た機会を活用し、愛媛を初めて訪問して頂けました。

台湾でも建築関係の仕事をされている喜屋武さんが特に愛媛に興味を感じてくれているのは豊富な森林資源を活用したＣＬＴ材を初めとする愛媛県産の木材等の材料、加工技術、輸送ルート、資材価格・運搬方法等、台湾や沖縄への木材の仕入れに関する内容のようでした。また、日本統治下の歴史的な建物の保存活用も台湾では積極的に行われており、愛媛県の歴史的な建築の保存活用の事例にも興味を感じているとのことでした。

今回の訪問に合わせ、愛媛県の森林政策課の方や松山支部長で愛媛県の歴史的な建築物の保存に詳しい花岡直樹様に時間を取って頂き、交流して頂くことができました。花岡様、お忙しいところ、お時間を作ってくださり、ありがとうございました。愛媛県と松山市は台北市と台中市と友好都市提携を結んでいることもあり、直行便が昨年４月から行き来していますが、台湾と愛媛の建築関係団体や木材団体の文化的な交流が今後、何かの形で発展していくと、広い視野で脱炭素や建築文化や技術面での交流にもつながるのではないかと考えています。機会があれば、台湾の建築関係の皆様に愛媛に訪問して頂いたり、愛媛の建築士の皆さんが台湾の建築視察を行う際に喜屋武さんに力になって頂けたらと思っています。

▲愛媛県林業政策課訪問中の喜屋武氏

台湾では木材の伐採が法律で禁止されているため、現在は木材は輸入が殆どとのこと。木材を建物に構造として使用するにはまだ、法整備が整っていない部分もあるようで、ごく一部に限られているようでした。ただ、ほんの少しずつですが、台湾でも木造の建物も近年では増えているそうです。写真は私が高雄市を訪問した際に撮影した台湾の木造建築（研修施設：中都湿地公園ビジターセンター）です。（ＲＣと木造の混構造でした）

▲中都湿地公園ビジターセンター

また機会を見つけ、訪問した台湾の歴史的な建築物、現代建築、現地の建築師会（台湾では建築士のことを建築師といいます）の関係者の皆さんとの交流を投稿できたらと思っています。

一般向け講座「防災学校」

文化財・まちづくり委員会　中山　百合子

開催日：令和７年２月２日(日)
会　場：愛媛県生涯学習センター
参加者：29人

2025年2月2日、「防災学校」が開催されました。携わってくださいました多くの皆様、ありがとうございました。

新しく何かを始めるときはいろいろと悩みがつきないものですが、今回の最大のテーマは集客でした。

建築士ならば耐震について知っているのは当たり前。届けるならば一般の人に届けたい、いつか起こるであろう大災害のその日に一人でも多くの人を救える企画にしたいとそう思いました。

開催をどう発信すればいいか考えました。事務局を通じての建築士の皆さんへの発信、景観写真コンテストで使用したインスタやフェイスブックからの発信、そしてネットだけではなくリアルに紙チラシを配りたいと、松山市役所の通路や会場の生涯学習センター、知人の店舗などに置いてもらい、イベントがあると顔を出しては手渡しをしました。また、会場近くの上野団地にポスティングをしました。マスコミの力も借りようと、愛媛県庁の記者クラブにチラシを持っていき、峰岡委員長と二人で愛媛ＣＡＴＶのチャンネルで告知をしました。

その結果、当日は29人の方がお越しになり、終了後のアンケートでそれぞれから集客があったことがわかり、どれも無駄でなかったことに安堵しました。

▲ケーブルＴＶにて告知をしました

▲講座の様子

講義は大変濃い内容でした。でも、ひとの話というのは耳から聞いただけでは忘れてしまいがちです。そのため当日は展示も多くしました。震災に関係する本やカタログ、防災グッズの展示。実際に能登半島に行かれて写真を撮られた済美高校の福岡稔先生からお借りした写真パネル。そして、持ち帰り用に講義資料や防災マップなどを準備しました。ずっしりと重くなった資料を、参加者の皆様が自宅で見直していただければ幸いです。

▲展示及び持ち帰り用の資料を準備▲

この「防災学校」の講座は愛媛ＣＡＴＶが録画をして、後日イベントチャンネルで放送をしていただくことができました。当日ご参加の方だけでなく、テレビの前の見知らぬ数十人（または数百人）の皆様に「防災学校」をお届けできて良かったと思います。

令和６年度 全国まちづくり会議報告（島根県）

文化財・まちづくり委員会　委員長　峰岡　秀和

開催日：令和７年１月31日、２月１日
会　場：１日目　松江市民活動デンター
　　２日目　興雲閣
参加者：峰岡・花岡（２名）

令和７年１月31日・２月１日の二日間にわたって、令和６年度第33回全国まちづくり会議が島根県松江市で開催されました。前回までと違い、「委員長会議」ではなく、「まちづくり会議」とされたのは、より多くの委員や会員に参加してもらうためとの事でした。今回愛媛県から２名が参加し、全国からは103名が集まりました。

▲会場の様子

◎１日目

13:30から開会、休憩なしで15:30分までパネラーのクロストークを行った後、休憩をはさみ、17：30までまち歩きというハードなスケジュールでした。パネラーのお話は松江市白潟地区のまちづくりをおこなっている若い皆さんの活動内容でした。駅前から外れた白潟地区は商店街も閑散としており、昔の賑わいを取り戻すべく、夜市の復活や空きビルの活用、YouTubeへの投稿など様々な度量をされていました。

特にＹｏｕＴｕｂｅは様々な方向へ情報発信をするだけでなく、「記録を残す」という事にも使用でき、大きな成果をあげられていました。若い人たちが自主的に活動をしている中で、街づくり会社「イエムスビ」がうまくまとめ上げ、行政とのパイプ役となっており、市民活動を邪魔しないようサポートする連携がしっかりとしていました。

その後白潟の商店街を歩きながら、まちの特徴や活用事例、今後の課題などを見て回りました。古い「町家」がそのままに商店街になっている状況で、一軒解体されると歯抜けのようになってしまいます。町家の為土地は奥に長く、駐車場が多い町となっていました。両側が無くなってしまって単独で建っている建物が何軒かあり、耐震などの不安を感じました。

▲白潟商店街
１階軒部分がアーケードでその上に低い２階部分が見える

▲奥に長い土地。蔵だけが残る

▲両側の家が無くなった建物

◎２日目

白潟のまちづくりに関して防災・歴史・景観などの観点からワークショップが行われました。白潟の町のポテンシャルをどの方向に伸ばすかをワールドカフェ形式で話し合いました。各議題がテーブルごとに設けられており、全体を回って意見を共有するという形式でした。寺町であることを生かした文化の町やインバウンドへの情報発信、空き地の活用方法など、「稼ぐ力のある町」に向けてのアドバイスがたくさんでました。今後これらを各地域に持ち帰り、様々な形で生かせるよう話し合っていきたいです。今回の会議では全国の状況は資料のみとなっていたのが少し残念でした。

来年は宮城県で行われます。震災から15年が経ち、復興がどのように行われ、まちづくりが行われているかが話し合われる予定です。

「とびだせ建築士in東予」2024年度

青年委員会　委員　瀬尾　祐貴

開催日：令和７年２月１７日（月）
場　所：愛媛県立東予高等学校　建設工学科土木教棟
　　２階測量実習室
参加者：東予高等学校建設工学科　１年生１１名
　　＋教員１名

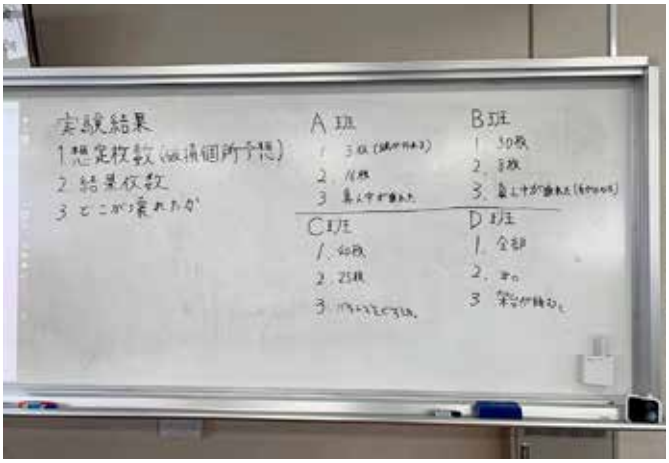
【活動目的】
将来の愛媛県を担う建築をめざす若者に建築の魅力、地域の歴史・文化の継承、良好な景観の形成を伝え、建築士会の枠を超え「とびだせ建築士」となり、地域社会に貢献する活動を目的とする。

今年度で7回目の開催となる「橋をつくろう」は、皆様のご協力もあり、毎年恒例の授業となっています。
H型鋼２個、L420木材２本、マグネット50個、竹ひご180㎜×４本、割箸１組、半紙１枚、糸１m×２本、クリップ４個、セロテープ300㎜×６本、A３紙１枚、輪ゴム２本。以上の材料を使用し一定間隔に設置したH型鋼２個に仮想橋を作成し、100㎜角タイルを載せ荷重をかけていき壊れ方の想定・耐えうるタイルの枚数等を考える授業となっています。（作業時間：40分）

▲製作課題

▲製作の様子

ルールとして①架台は触らない②橋は下から支えない③100㎜角のタイルを載せるスペースを作る④建築士会のメンバーは助言しない―等ありますが、ルールから逸脱する事無く全４班個性のある橋を作成していました。全て紹介することができないのが残念です。
最高記録を出すのにはタイルを載せるコツ等ありますが、橋を制作中にタイルを載せることはできません。自分たちの手で作成した模型に荷重をかけ変形具合を見ながら試行錯誤しているのがとても印象に残っています。



▲実験前から実験後に至るまでを考察したもの

▲最高記録タイル30枚を載せたD班

自分達で想定していた枚数よりも少なかった為、「もっといけると思っていた。もう一度実験したい」と感情を声に出し悔しがっていました。グループ内で最高記録を出せたのにまだ向上心を高める気持ちが、今後自分自身を成長させていく糧となっていくでしょう。私も見習わないといけないなと感じさせて貰った１日でした。当授業では楽しみながら学べる実験となっているので、今後も続けていきたいと思います。
来年は建築士チームも2年ぶりに実験参加でしょうか。

令和６年度 全国青年委員長会議報告（東京都）

青年委員会　委員長　武智　良太

開 催 日：令和７年３月８日（土）～９日（日）
開催場所：東京文化会館（東京都台東区上野公園）
参 加 者：愛媛から１名参加（武智）

３月８～９日に東京にて行われた、令和６年度全国青年委員長会議に出席して参りました。全国青年委員長会議は２度目の参加でしたが、仙台で開催された前回とはまた違った毛色の会議となりました。

１日目第１部は、大阪・関西万博会場施設の評価委員もされた建築家・吉村靖孝氏の講演。近年の取り組み・万博会場施設審査・今後の建築業界について等、幅広い話題を拝聴しました。

第２部は、吉村氏に加え、万博施設の設計を担われた小俣祐亮氏・金野千恵氏・三井嶺氏の三方を加えてのクロストークセッション。裏話も交えながら、それぞれの万博施設についての考えを拝聴しました。施設ももちろんですが、各々設計者の皆様自体の個性が光る討論でした。

▲第２部 クロストークセッション

第3部は、47都道府県の委員長の皆様が8つのグループに分かれてグループワーク。このグループ分けで、夜の意見交換会と２日目のワークショップも進行することとなります。この時点では、顔合わせと２日目のワークショップのテーマ設定程度に留まりました。

夜は、上野の街で意見交換会。第３部で分けられたグループのメンバーで、お酒を交えながらの意見交換と翌日に備えての作戦会議。そのさなかで余興も始まりました。

明かされた余興の内容は「建築士大喜利」。

会場一同戦々恐々でしたが、こちらの余興で私達のグループがなんと優勝。壇上で「あっ」と発声したら景品の銘酒〝獺祭（だっさい）〟をいただけたという、珍しい実績解除を上野で果たしてきました。

２日目第４部及び第５部は、昨日から通してのグループでワークショップ。

全国のメンバーを巻き込んだプロジェクトの立案と発表を行うという内容でした。

▲第４・５部 プロジェクト立案ワークショップ

私達のグループは、全国連携での災害対策という内容。２日通してのグループ分けということもあり、２日目には円滑に話し合いを進めることが出来るとともに、親睦を深める事が出来ました。

▲最後に中四国ブロックメンバーで記念撮影

日頃なかなか出来ない体験尽くしで貴重な２日間となりました。ここで得たものを愛媛に持ち帰って、今後の活動の糧に出来ればと思います。

ありがとうございました。

淡路島　視察研修バスツアー

今治支部　重松　憲太郎

開 催 日：令和7年3月15日(土)
開催場所：徳島・淡路島各所
参 加 者：9名

昨年に引き続き、今年も日帰り視察研修に行ってきました。今回は四国を飛び出し淡路島まで足を延ばします。

今治を出発後、途中の徳島にて「東林院弥勒堂」を見学、その後淡路島に渡り昼食、大栄窯業株式会社、戦没学徒記念塔と廻りました。

東林院弥勒堂は「(公社)日本建築家協会 四国支部主催第6回四国建築賞 大賞」を受賞した建築物で、国指定重要文化財である弥勒菩薩坐像が奉安されています。建物の構成は中央に弥勒菩薩坐像を奉安する内陣と、その両脇4.5m×9.0mの外陣を大きな大屋根が覆う構成となっており、大屋根は後述する大栄窯業さんの瓦が使われています。大栄窯業の道上社長もわざわざ合流していただき、建設時の説明等を受けました。

▲弥勒堂

昼食は南あわじの「まるみ食堂」で地元食材を生かした本格ピッツァを堪能しました。

▲右下が道上社長

▲本格ナポリピッツァ

大栄窯業株式会社では道上社長による「いぶし銀粘土瓦の魅力について」の講演をしていただき、その後工場内を見学しました。淡路の土で作られた瓦「銀古美」は上述した弥勒堂にも葺かれており、非常に深みのある色合い、安心感等、日本建築に生える瓦であると思いました。機会があれば皆さんもぜひ採用してみて下さい。

▲道上社長による講演

戦没学徒記念塔は「若人の広場公園」の一角にあり、丹下健三氏が設計した建物で、戦没学徒を慰霊する施設です。記念塔は学徒の象徴としてペン先をモチーフとした25mの高さの建造物で、大見山山頂にあります。そこから望む鳴門海峡の大パノラマは、とても神聖な雰囲気を感じることができました。竣工は1967年で丹下氏の最盛期といえる期間に完成した作品ですが、氏の意思で雑誌などでは紹介されず、歴史の中に埋もれた丹下建築としても知られています。

▲戦没学徒記念塔をバックに

コロナ禍後の去年に引き続きの視察研修でしたが、何事もなく、予定通りに行うことができました。唯一の誤算は、とにかく寒かった…。来年も行くようであれば、上着1枚持って行こうと思います。

色々案内してくださった道上社長、安全運転をして下さったドライバーの方、本当にありがとうございました。

また、事前準備を行ったスタッフ、当日参加者の皆様、お疲れさまでした。

とにかくさむかった…。

［事務局からのお知らせ］

会員の皆様、会費の納入時期です。

令和７年度の会費納入時期となりました。本会運営の財源として大きなウエイトを占める会費ですので、会員の皆様方の早期納入をお願いします。
納期は本会の定款により毎年６月末日としております。
会費を銀行口座引落しにされている方は、６月27日（金曜日）に指定口座から引き落としさせていただきますので、よろしくお願いいたします。
会費を銀行口座引落しにされている方につきましては、請求書は郵送しておりません。
請求書・領収書が必要な方は建築士会事務局までご連絡ください。
【会費は下記のとおりです。】

正会員の方……18,000円
準会員の方……12,000円
正会員+建築CPD情報提供制度に参加の方……18,520円
準会員+建築CPD情報提供制度に参加の方……12,520円
賛助会員……一口　10，000円（4月2日に請求書を郵送しております。）

令和７年度講習会日程のお知らせ（詳細はＨＰ）

■監理技術者講習
松山会場　5月22日(木)、6月12日(木)、9月4日(木)、
10月24日(金)、12月16日(火)
宇和会場　7月11日(金)

■既存住宅状況調査技術者講習（松山会場）
（新規講習）11月18日(火)
（更新講習）12月4日(木)

■一級／二級／木造建築士定期講習
新居浜会場　7月17日(木)
今治会場　8月7日(木)
松山会場　8月26日(火)、11月11日(火)、R8年1月15日(木)

＜会場住所＞
松山会場……愛媛県建築士会館　（松山市二番町４－１－５）
宇和会場……愛媛県歴史文化博物館（西予市宇和町卯之町４－11－２）
新居浜会場……愛媛県総合科学博物館（新居浜市大生院2133－２）
今治会場……テクスポート今治　（今治市東門町５丁目14－３）

愛媛県建築士会ホームページ　http://www.ehime-shikai.com

あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしています。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。
(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承ください。)

「いしづち」の次号の原稿締切日
令和7年　7月号（165号）　令和7年5月29日(木)

※校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。
※1ページ写真込みで2150文字（25文字×43行×横2段）のＷｏｒｄ様式を事務局で用意していますのでご活用ください。
写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。
また宜しければ投稿者の写真（免許写真程度の顔写真）を添付してください。
会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。
(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかもしれませんので予めご了承ください。)
この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にまで、建築についての対話等の輪が広がればと願っています。
情報・広報委員会

読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せください。お待ちしています。
「いしづち」編集委員会(士会事務局内)宛　FAX 089−948−0061

編集後記

皆さんは小倉城を訪れたことがあるでしょうか。小倉城は、福岡県で唯一、伝統的な日本の城の象徴である天守閣を持つ城です。独自の建築デザインである「唐造(からづく)り」と豊かな歴史を誇り、北九州市のシンボルとして親しまれています。その様な小倉城を訪れました。

城郭専門家から「日本一の海城」と称される小倉城。その広大な城郭は、かつて全国で第5位の規模を誇り、西日本では姫路城に次ぐ大きさでした。特に九州では圧倒的な規模を持ち、熊本城の約2倍にも及ぶ壮大な総構えは、「呆れるほどの大きさ」と評されるほど。

この城郭は、小倉の街全体を取り囲むように設計され、そのスケール感は他の城を圧倒します。しかし、現在私たちが目にする小倉城は、かつての本丸と二ノ丸の一部にすぎないそうです。往時の広大な城郭を思い描けば、その壮大さがいかに際立っていたか感じられました。

また、この小倉城は、福岡県で唯一の天守閣を持つ歴史的な名城。その天守閣は全国第6位の高さを誇り、1階の床面積は全国有数の広さを持ちます。さらに、現在全国に現存する天守閣の中では第3位の規模を誇る堂々たる姿。訪れる人々を圧倒する存在感を放っています。

そして、この規模以上に存在感を放っているところがありました。それは、日本全国に数ある城の中でも、エンターテイメント性を重視し、訪れる方々に驚きと感動を提供することを目指している点です。歴史や文化を学べる体験型展示や、普段から宮本武蔵が歩いているなど個性豊かなイベント、そして天守閣最上階に360度見渡せるカフェがあり、また行きたいと思える程でした。

小倉城「日本一おもしろき城」がそこにありました。

〈いしづち〉2025/5
令和7年5月発行
発行人　**会長　尾藤　淳一**
発行所　**公益社団法人　愛媛県建築士会**
〒790-0002　松山市二番町四丁目1-5　愛媛県建築士会館2F
TEL(089)945-6100　FAX(089)948-0061　http://www.ehime-shikai.com
印刷所　アマノ印刷有限会社
情報・広報委員会・広報委員
委 員 長／大平　将司　　副委員長／渡邉　道彦
編集委員／一之瀬　佳緒理　　河合　優志　　西岡　亜有美　　西森　勉